第１研究課題　第１Ｂ分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題　「ふるさとに夢や誇りを持ち、学び合う子の育成と教頭の関わり」

―学校・家庭・地域が連携した教育活動の工夫を通して―

上島町立弓削小学校　　松　本　正　春

１　研究の概要

上島町は瀬戸内海の芸予諸島のほぼ中央に位置する島嶼部の町であり、町内にある７小中学校は全てへき地指定である。既に開通している２つの橋（弓削大橋、生名橋）に加え、令和４年の岩城橋開通によって町内の４つの島が橋でつながることとなり、これまで以上に地域が一体となり、地域の教育力を生かした子どもたちの育成が期待されている。

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の関わりの中で、素直で何事にも一生懸命取り組むことができる。一方、自分の思いや考えを伝えることを苦手としている児童が多く、指示を待ったり他人に任せたりするという消極的な面が見られる。そこで、豊かで美しい自分たちの「ふるさと」を学習の場・対象・教材として取り入れ、学習活動において創意工夫を凝らすことで、これらの課題を解決するよう取り組んできた。また、令和元年度からの３年間愛媛県へき地・地域教育の研究指定を受け、学校と家庭・地域が連携・協力しながら学習指導や行事等の活動に取り組み、児童一人一人の学力や表現力の向上を目指している。

２　研究の内容

実　践　内　容	教頭としての関わり
(1)　上島町の取組	
ア　上島町教頭会研修会の取組	○　情報交換及び課題の共有
イ　コミュニティ・スクールの取組	○　教頭会における情報交換
ウ　地域ふれあい学習会での連携	○　関係諸機関との連絡・調整
(2)　本校の取組	
ア　郷土愛を育む学習活動	
(ｱ)　地域素材を生かした学習活動	○　地域人材・外部講師との連絡・調整
(ｲ)　ＩＣＴを活用した学習活動	○　校内研修の時間の確保と指導助言
(ｳ)　異学年集団の活動の工夫	○　実施日の調整と保護者・地域への情報発信
イ　家庭・地域との連携	
(ｱ)　家庭と連携した望ましい学習・生活習慣の定着	○　学校だよりや学校ＨＰでの啓発
(ｲ)　地域との協働活動	○　諸団体との連絡・調整
(ｳ)　弓削中学校との連携	○　中学校との連絡・調整
(ｴ)　地域の高等学校・高等専門学校との連携	○　各校との実施日等の調整
(3)　成果と課題	

３　教頭としての今後の課題

(1)　コロナ禍における行動面に制限がある中で、教頭として学校と家庭・地域との連携をどのように進めていけばよいか。

(2)　一人一台のタブレット端末等のＩＣＴ機器を、家庭・地域との連携に効果的に活用していくために、どのような取組を進めていけばよいか。

１　はじめに

上島町は瀬戸内海、芸予諸島のほぼ中央にある島々からなる。町内の小学校４校、中学校３校は全てがへき地指定である。既に開通している弓削大橋、生名橋に加え、令和４年３月には岩城橋が開通する予定である。このことにより町内の４島が橋でつながることとなり、今まで以上に学校間や地域間の交流が盛んになると考えられる。一方、他のへき地地域と同様に、上島町においても過疎化、高齢化は避けることのできない課題となっている。

本校は弓削島、佐島の２島をほぼ校区としており、豊かな自然に恵まれている。平安時代後期には全国的にも珍しい島の荘園として栄え、京都の東寺へ塩を貢納していたという文献も残っている。現在も「藻塩」「弓削海苔」などの特産物を始め、自然を生かした地域おこしが盛んである。また校区には、保育所、中学校、県立高等学校、国立商船高等専門学校があり、教育環境も充実している。地域の方も温かく児童を見守り、学校教育に対して協力的である。

児童は、このような豊かな自然と温かい地域の人々との関わりの中で、素直で何事にも一生懸命に取り組むが、自分の思いを表現することについて多くの児童が苦手と感じている。この課題を解決するために、豊かで美しい自分たちの「ふるさと」を学習の場・対象・教材として取り入れることで、自己肯定感や自己有用感を高めようと試みた。

そのために教頭として、学校と家庭・地域がどのように連携し、地域の人材や環境をいかに効果的に活用するかを考え、家庭・地域への働きかけや連絡・調整を行った。

２　研究の内容

⑴　上島町の取組

ア　上島町教頭研修会の取組

上島町教頭会は小学校４校（１校は中学校と兼務）、中学校３校の６名の県内最小の教頭会組織である。また全ての学校が島しょう部の学校であり、全員が集まるためには必ず何名かが船を利用しなければならない。このような地理的な不便さはあるものの、昔から「上島一家」「上島はひとつ」と学校間や地域間の交流を密に行い、定期的に研修を行っている。令和２年度は上島町役場の方を講師に迎え、防災教育についての研修を行った。

イ　コミュニティ・スクールの取組

令和元年３月に小学校校区ごとに学校運営協議会が設置され、各地区で学校経営方針の承認やよりよい地域連携の在り方についての話合いを重ねている。どの地区も教頭が事務局を務め、地域コーディネーターや会長と連絡を取りながら、年間５～６回計画されている協議会の企画・運営に携わっている。まだ３年目であり、昨年度と今年度はコロナ禍で参集しての開催ができなかった回もあることなどから、それぞれの会の取組についての情報を教頭会で交換し、自分たちの地区の会の運営の参考としている。

また、上島町学校運営協議会研修会では、町内の３つの会場をＷｅｂでつなぐことで、グループ協議の内容を元に、活発に意見交換を行った。

ウ　地域ふれあい学習会での連携

上島町では、平成 28 年から旧町村別で、地域の人権課題に気付き、よりよい学校づくり、地域づくりに参画しようとする意識を高めることを目的として、地域ふれあい学習会を開催している。この学習は、学校、家庭、地域が一体となって人権問題について学び合う会である。今年度は生名小学校で「心から暮らしやすい町づくり」についての意見交換と NPO 法人「ポップコーンの会」代表者による講話、弓削小学校で「パラスポーツを体験しよう」（ボッチャ体験）など、それぞれの地区ごとに趣向を凝らし、参加者が学びを深めることのできるように、教頭や人権同和教育主任が町教育委員会と話し合いを重ねながら実施している。

パラスポーツ「ボッチャ」体験

⑵　本校の取組

ア　郷土愛を育む学習活動

(ｱ)　地域素材を生かした学習活動

ふるさとに夢や誇りをもって学び合うために、生活科や総合的な学習の時間の学習活動に、弓削ならではの歴史や文化、自然等、ふるさとから学ぶ体験活動を取り入れ、充実させることで、ふるさとのよさを実感できる学習を計画した。

この体験活動には地域の自然や人材を積極的に活用しており、各学期の初めに地域コーディネーターを交えた打ち合わせの会を設け、計画的に取り組んだ。

２年生の生活科「もっとなかよしまちたんけん」や４年生の総合的な学習の時間「弓削の達人について調べよう」では、町内にある施設や職場で働いている人の思いを尋ねたり、藻塩作りや味噌作りに取り組む人たちの工夫や苦労を伺ったりして、仕事や地域に対する思いを考えた。

藻塩作りについての学習

また、３年生の総合的な学習「弓削の自然となかよくなろう」や５年生の「弓削の環境を考えよう」では、自然を生かした産業や自然環境を守るということについて体験を通して学んでいる。

(ｲ)　ＩＣＴを活用した学習活動

本校は同じ町内の魚島小学校と定期的に交流を行っている。魚島小学校は同じ町内であるが別の島にあり、船で１時間程度かかる場所にある。今年度から上島町に配置されたＩＣＴ支援員と連携をとりながら、６年生がインターネット回線を使って遠隔授業を行った。

５年生の総合的な学習の時間では、環境問題に取り組み、学習した内容を元にＣＭ作りに取り組んだ。このＣＭを町内のＣＡＴＶ局に依頼し、町内に放送してもらうことができた。

(ｳ)　異学年集団の活動の工夫

全校児童を５つの縦割り班に分け、１年間を通して様々な活動に取り組んでいる。異年齢集団の中で互いに関わり合うことで，思いやり、協力、自主性、リーダー性などが育つとともに、地域の自然や環境を積極的に活用することで、自然や郷土に対する愛着を高めることができている。

・　春の島内遠足

班ごとに行き先や活動内容、行程を計画して遠足を行う。

・　砂浜集会

テーマに沿った図案を班ごとに考え、砂浜に巨大なアート作品を制作する。

・　委員会が企画・運営する異年齢集団活動

学年対抗ドッジボール大会　自慢大会など

春の島内遠足

イ　家庭・地域との連携

(ｱ)　家庭と連携した望ましい学習・生活習慣の定着化

家庭と連携を図りながら学習習慣を確立していくために、毎月第１週を「学習強調週間」と位置付け、「生活・学習習慣調べ」の表を作成して保護者に記録や確認をしてもらっている。「生活・学習習慣調べ」には、めあて、起床時刻、朝食、学習時間、テレビ等の視聴時間、睡眠時間の記入欄を設けており、学校ホームページや学校だより等を通じて、協力を呼びかけている。

(ｲ)　ＰＴＡ・地域との協働活動

・　まんじゅう山アスレチック・トリムコース

弓削小学校のすぐ北側にある伊勢山（通称まんじゅう山）に設置されている「まんじゅう山アスレチック・トリムコース」は、昭和 52 年に当時のＰＴＡが作成した

手作りのトリムコースである。40 数年経った現在も、施設等を補修・整備しながら利用している。子どもたちが安全に活動できるようにＰＴＡによる奉仕活動を企画し除草作業を行った。

・　弓削地区学校運営協議会

弓削小学校と弓削中学校を合わせた弓削地区コミュニティ・スクールでは学校運営協議会を年間５回行い、各校の学校経営方針や行事計画の承認、よりよい地域連携の在り方について話合いを重ねてきた。昨年度は地域における子どもたちの見守り活動について議論を重ね、チラシを作成するなどして地域ぐるみで子どもの見守りを行う呼びかけを行った。今年度は、委員に県主催のコミュニティ・スクールの研修会（オンライン開催）への参加を呼びかけ、視聴環境が整っていない委員については、学校でサテライト会場を設定し参加できるようにし、幅広く研修が受けられるような取組を行った。

サテライト会場での研修

(ｳ)　弓削中学校との連携

弓削中学校は弓削小学校の隣にあり、両校の運動場には境がなく、体育や放課後の部活動などは隣り合って活動している。行事の日程調整や学校運営協議会の計画などに教頭同士が連絡を密に行っている。

・　ふるさと学習　小学６年生と中学１年生の交流授業

・　伝統芸能「雨乞い踊り」を一緒に学び練習する、伝統文化の継承

(ｴ)　地域の高等学校・高等専門学校との連携

弓削島にある県立弓削高等学校や弓削商船高等専門学校の教職員や生徒・学生の協力を得て、ふるさと学習や児童の学力向上に取り組んだ。また、防災教育、環境教育、ＩＣＴについての講師としての依頼や、課外活動における生徒・学生と児童が一緒になった活動など、日頃から様々な活動に協力を得て取り組んでいる。

・　弓削商船高専と連携したプログラミング学習

・　弓削高校生との金管バンド、弓削商船高専生との陸上競技などの合同練習

・　弓削商船高専教師による環境教育の出前授業

３　研究の成果と課題（○成果、●課題）

○　上島町の教頭が積極的に情報交換することによって、コミュニティ・スクールの在り方や、家庭、地域との連携についてのアイディアが得られ、各校の取組に生かすことができた。

○　郷土愛を育む学習活動では、教員や児童と地域コーディネーターやゲストティーチャーなどとの間に入り、日程や活動内容の調整を行うことで、効果的な活動を行うことができた。児童は地域の人の生き方や考え方に触れることで、自分自身の将来に目を向けることができた。

●　新型コロナウイルス感染症の拡大により、以前と比べて家庭や地域との交流が行いにくくなっている。家庭や地域との交流の行い方や情報発信の仕方などについて工夫し、検討していきたい。

●　一人一台タブレット端末の活用方法などＩＣＴを活用した取組については、教職員の研修を行い、全ての教職員が使いこなして授業や会議などで積極的に活用できるようにしたい。

４　おわりに

今回の取組では、町内各校の教頭と情報を共有し、地域や保護者からの協力を得ながら様々な体験活動を行うことができた。子どもたちは地域の良さを知り、ふるさとを愛する気持ちが育ってきている。一方、新しい生活様式の中での活動の進め方の工夫・検討や、限られた時間の中で活動の精選を行う必要がある。教頭として今回の取組の成果を検証し、関係諸機関との連携を密にして、さらに効果的な取組となるよう研究を進めていきたい。